

## 「春の新宿御苑(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

春の新宿御苑は、花であふれていた。数歩歩くたびに、次々と別の花に出会う・・・そんな遠足だった。



日本庭園の池畔には、ヤエザクラが満開だった。ほかにも、ヤマブキやレンギョウの黄色が鮮やかだ。天気が悪いのが残念だったが、実に「日本の春」らしい、すばらしい景観だった。



これは、満開のヤエザクラ。ヤエザクラは、普通のソメイヨシノやオオシマザクラに比べて、2週間ほど花の時期が遅い。新宿御苑には多くの品種のサクラがあるので、1ヶ月近くの長時期、サクラを楽しめる。ただし、アルコール類は持込禁止。御苑内での酒宴はダメ！というわけだ。空港のように、入口で荷物検査まである徹底ぶりである。



これはウメのように見えるが、ボケの花である。ボケもバラ科の植物なので、ウメやサクラと似たような花をつける。ウリに似た果実をつけるので、もともと「木瓜(もけ)」と呼ばれていたものが、「ボケ」に訛ったと言われている(他の説もあり)。



カエデも花をつけていた。地味な花なので、子どもたちはなかなか気づかない。そっと枝を寄せて、説明したら、「これが花なのー？」と非常に驚いていた。春の新宿御苑・・・観察対象は無限にある。